

令和3年10月19日
14:00 から 15:00

ZOOMにて

24時間安心在宅介護のクローバー合同会社

令和3年度第二回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

介護・医療連携推進会議録

(1) クローバー挨拶、構成員紹介(別紙：構成員名簿あり)

訪問看護ステーションすずらん山田氏は急遽欠席。

代表星野より挨拶。

介護職員の不足、高齢化(平均50代)について。若手の採用、職員研修の充実により人材育成をクローバーも注力している。各種ハラスメントについてもしっかりと対応することで離職を防ぐ。人材紹介会社からの営業も多々来ている。紹介手数料などのトラブルによって倒産に至るケースも多いと聞く。山科営業所の開設のお知らせ。理念に沿って、今後もクローバーがいて良かったと思っただけのサービスを目指したい。

(2) サービス利用状況(別紙あり：資料①)

- ・現在の連携訪看 9件 前回より1件増加
- ・居宅件数 17件 前回より2件増加

契約件数も相談件数も大きく減少している。訪看の回数が減るのは困る、料金が高いと言われる、ということで契約に至らないケースが増えている。看取りのケースも多く、短期に終了するパターンが多く、また契約に至るまでに亡くなれることも多い。病院で面会が出来ないため自宅での看取りを希望されるケースが多いように見受けられる。他の事業所で断られ弊社に依頼されるケースも多い。

コロナ対応の依頼について…

この間、陽性者の自宅への訪看が訪問を拒否しヘルパー事業所が撤退されたことから弊社に依頼があった。同和園訪看鶴飼氏に助言を求めながら、備品の用意、2名のヘルパーを専属にして対応するようにしたが、重度化されて入院されるに至った。コロナ禍の中でのサービス提供のためにいろいろと検討出来た良い機会だったと捉えている。

(3) コロナ禍においての地域の現状

ご意見をください。

北部包括（西村氏）

業務の中で得た情報であるので偏った情報になることを前提に、コロナによる対応について次々と発生したような意識はない。サービスが入らない、入院もできないというケースはあった。訪問診療と訪問看護は行政が介入してくれたが、それ以外のサービスについてケアマネが色々奔走していたように思う。少しずつ行政の分業化が進んできたように思える。

コロナの対応をすることを決め、自社にしっかりとした情報を持ち合わせていない状況で訪看に助言を求められたという経緯は非常に望ましい形だと思う。こうした会議で関係を形成出来ているからこそだと感じた。

同和園居宅介護支援事業所（長谷川氏）

8月9月頭くらいが各事業所からも感染者が良く出ていて、休止の報告や各種調整の連絡などが相次いだ。どうしても感染者が出ると入院出来ない方については、サービスを受け入れてもらえない状況が頻発するため調整に苦慮する。医療チームが介入してもらえる形になってきたので、それで何とか乗り切ったケースもあった。濃厚接触者の方にもサービスが入らず、そこには医療チームの派遣もしてもらえないということで、そういう方へのサービスの提供をどうしていったら良いのかというのが悩ましいところ。

サービス調整が難しい場合は行政に依頼をすることも可能ではあるが、濃厚接触者については行政も入ってもらえない上、サービス拒否もされるので非常に困る。

株式会社四季 訪問看護ステーションすずらん（山田氏）

欠席。

同和園訪問看護ステーション（鶴飼氏）

「京都きさつたい」という医療チームが出来て、動き始めている。京都医師会も動き始めている。しかし、法人の意向で参加しないというところも多い。特に新規で受け入れてくれるケースはほとんどない。「きさつたい」に依頼するしかない現状はある。「きさつたい」や「医師会」の動きに協力しようという訪看は少しずつ出てきてはいる。コロナ対応をしようとしてくれているヘルパー事業所さんに対して、何に気を付けて無駄に怖がらなくて良いという指示をしていくのが訪看の役割ではないかと思っている。

醍醐学区民生児童委員会長（内海氏）

コロナに対応する専門知識は我々にはない。コロナの渦中で活動するということのお願いはしていない。直接の接触はせずに電話などで状況確認をしてもらうなどの活動をしてもらってきた。行事など楽しみにされてきたものが軒並み無くなってしまったため、これまでそうした機会にお声がけできていたのが出来なくなってしまい、その間にお亡くなりになって町内にも知らされていないというようなケースも聞いている。そうした情報が何とか民生委員の耳に届

けられるように出来ないかと思案はしているが、無理のない範囲で対応をしてもらうことを基盤に民生委員の活動を継続していきたい。

トトハウス（松井氏）

緊急事態宣言が解除されてから、来られる方が増えてきた印象があり、皆さん行く場所を求めておられるように感じている。パーティーなど出来る限りの対応を行い、他者との交流が出来る場の提供を続けられるように思っている。

マスクももういいんじゃないか、という気の緩みがあるお客様が増えてきている印象がある。不用意に恐れることは良くないし、ふれあいの場をみなさん求めておられる現状もあることから、正しく恐れ、正しく活動できるよう、地域の中でそうした助言を頂ける場もあるといいなと思う。高齢の方はほぼワクチンを打っているのでそうしたことから気の緩みなのかもしれない。

（４）R3年4月～R3年9月の周知活動、職員体制、事業所の動きについて

○周知活動について複数枚参考資料あり。

コロナ禍においても最低月一回は居宅等に周知活動を行っている。9月においては醍醐地区2回、山科地区3回に分けて各事業所への活動を行っている。山科地区は「使いにくいと思っている」などの意見も多く頂いており、一からの周知が必要だと感じている。

○現在の職員体制について

正職員（準職員）計9名 登録ヘルパー 6名（内夜専属3名）

募集活動：今後の事業継続のための職員・登録ヘルパー募集の活動について。

専門学校でも授業で定期巡回について扱っておられるという話を聞くことが出来た。第三者評価でもインターンの受け入れなど行っていくよう指摘があったことも踏まえ若手育成に向けても注力したいと思っている。

○山科地区訪問のための拠点開設について。

冒頭の星野の挨拶の通り。

（５）ご利用者アンケート・自己評価・外部評価について

ご利用者アンケート（別紙：資料②）

結果について紹介。21名中13名の回収率だった。

自己評価・外部評価（別紙：資料③）

本年度の自己評価を8月に行った。昨年度の自己評価・外部評価については「一般財団

法人二十四時間在宅ケア研究会」のものを使用した。が、職員からも内容が分かりにくいとの意見あり、推進会議のメンバーの方々にも返答しにくいものであったため、今年度は職員の率直な意見も集められるようにアンケートも交えたものに作り替えて行った。

以前の物の設問をすべて網羅した形ではなく、今後も改良する必要があるが、本年度はこの形で行う。

推進会議の皆様には外部評価の部分を11月30日までに弊社へ返信用封筒にて送り返していただくようお願いいたします。

不明な点は立脇まで連絡をくださいますようお願いいたします。

(6)BCP 対策委員会、感染症対策委員会、虐待防止委員会設置、マニュアルの作成について

介護保険の改正に伴い、厚労省の期限は令和6年度末となっているが、各種委員を設置し、今年度末にはマニュアル等整備し来年度は訓練を実施するよう考えている。

大規模災害が起きた場合に、地域の訪問介護事業所に期待すること、こういった連携をお考えになっているのか、などご教示頂きたい。(コロナの感染拡大時にお話しを伺ったところ大きな法人は自法人でサポートが可能であること、同和園前園長の橋本氏からは相談してくれたら良いとお言葉を頂いていたが、具体的にどのように動いたら良いのか不安に感じている)

包括：西村氏

大規模災害時における個々のルールを決めてというより、地域の見守りの体制を確保するというのが大切だと考える。そのための横の繋がりが出来れば地域を支える大きな力になる。非常事態に備えてということだけでなく、「見守りの社会」(監視とならないよう)のスタイルの確立が出来ればどのように状況においてもこれからの時代は必要になってくると考えている。これまでは近所付き合いという見守りの形があったが、今後は新しい形の見守りの形が必要になっていると考えている。

同和園：長谷川氏

法人としてBCPの整備はまだ進められておらず、内部での応援体制についてもうまくいっていない現状があり、それを外部法人との協力体制となるとハードルが高く、どのように進めていったら良いのか思案している。

民生委員会長：内海氏

台風などの事前にわかる災害について、事前に独居老人宅に訪問するなどの対応は出来る。突発的な災害において、民生委員自身も被害を被っていると想定出来、その際にどのように動けるのかについては考えられていない。しかし、そのような時こそ「両隣三件、遠くの親戚より近くの他人」という社会作りの構築に向けて動いていくことが大事かと考

えている。どのような動きをしていったら良いか、ご指示頂ければとも思う。

➡クローバーとしては一時間以内に集まれる職員の確認方法の体制作りや、各事業所、団体で声を掛け合いながらサポートしあえればというイメージはしている。

同和園訪看：鶴飼氏

毎月地域医療の会合を開いてマニュアルのチェックをしたり、コロナ禍においての協力体制のためのフローチャートなども作ったりしている。それらを流用してもらえたら良いのではないかと考える。

トトハウス：松井氏

地域の方々ももしもの時にどうしたら良いのかということは悩んでいると思うし、自分自身もそうした知識がない。「まずは知ってもらう」ための地域の活動が必要ではないかと思う。

自分たちの住む地域にどういうサービスがある、とかあらゆる情報を地域住民が知って「一人で抱え込む」ことを予防していく取り組みがとても大事だと考えており、そうした場にしたいと思って運営しているので、そうした機会としてぜひ使ってほしいと思っている。

➡地域の窓口としての役割を担っていくべきことについて、以前西村氏から助言頂いていることもあり、トトハウスを通じて皆さんに知っていただければと考える。

(7) 代表社員 星野より挨拶

(8) その他

特になし。

令和4年度 第一回目 介護・医療連携推進会議 : 令和4年4月に予定しております。

ご協力をお願いいたします。

以上